
蝶を放つ

thlaspi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蝶を放つ

【コード】

N9130B

【作者名】

thlaspi

【あらすじ】

ママはいつも私より先に解決策を口にする。そして、一番心臓がドキドキするところを私にさせようとする。

蝶の蛹を見つけたのは私だった。雨のせいから5月にしては寒い日で、ママはコタツに入ってテレビを見ていた。蛹のついた山椒の枝は重みで少し歪み、蛹の表面は膨らんで黒い斑点が透けていた。私はそのまま羽化を見守ろうとした。でも、ママが「寒いから家に入れましょう」と枝を手に取った。心細い音がして枝は折れた。

翌朝、目覚めると蛹は羽化していた。生まれたばかりの蝶は苦しい息をつくようにゆっくりと羽を震わせていた。虫籠にはママが蝶のために切ったオレンジがひとかけ入っていた。私も蝶を元氣付けようと瓶の蓋に砂糖水を作って入れた。蝶はオレンジにも砂糖水にも寄り付かなかった。蝶が何を欲しがっているのかが分からない。私が凶鑑を見ていると、ママが「理科の先生に聞いてみたら」と言った。私はしばらく学校を休んでいた。「電話で聞けばいいじゃない」「ママはいつも私より先に解決策を口にする。」「あなたが見つけた蛹だから、あなたが電話して聞かなくちゃ」「そして、一番心臓がドキドキするところを私にさせようとする。

先生は留守だった。奥さんが「帰ったら電話するわね」と言った。先生から返事があったのは夜遅くだった。「蝶のことをよく知らなかったから詳しい人に電話したんだ」先生は、砂糖水を綿に染み込ませて虫籠に入れるといいと教えてくれた。それから羽についている”リンポン”という粉が取れると蝶が弱ると教えてくれた。

私がお礼を言おうとすると、ママは受話器を取り上げて先生と話し始めた。「蝶が一晩何も食べないと死んでしまうんじゃないか」とこの子が不安がって。本当に申し訳ありません」ママは、自分が遠隔操作みたいに私に電話をかせたことを先生に言わなかった。

数日後、私は虫籠の蓋をあけて蝶が出るのを待った。蝶は出口を見つけられずにいた。ママは見かねて手を入れ、さんざん追いまわしたあげく、蝶の羽をつまんで空へ放り投げた。蝶は一瞬バランス

を失ったが、よろけながら飛び立った。私は”リンポン”をいじってはいけないとママに言おうとした。でも私は結局言わなかった。蝶はもう巣立ってしまったのだ。ママは蝶を見送ると、手の”リンポン”を払ってまたコタツでテレビを見始めた。

(後書き)

一度こちらから削除した作品ですが、思うところあって再投稿しました。

これから他の作品も少しずつ投稿していきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9130b/>

蝶を放つ

2010年10月10日23時29分発行